

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 5 回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり有識者協議会			
事務局 (担当課)	都市計画課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 7 (直通)		
	生涯学習課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)		
	公園課	電話 0 4 2 - 7 0 7 - 7 0 2 2 (直通)		
開催日時	令和 4 年 1 1 月 1 1 日 (金) 午後 6 時 3 0 分～午後 7 時 1 5 分			
開催場所	オンライン開催			
出席者	委員	4 人 (5 ページのとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	1 1 人 (都市計画課長、生涯学習課長他 9 人)		
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数 1 人 (ほか報道機関 1 人)
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第	1 基本計画修正素案について			

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(○は委員の発言、●は事務局の発言)

1 経 過

有識者協議会野口会長による開会、傍聴の確認を行った後、基本計画修正素案について意見をいただいた。

2 議 事

(1) 基本計画修正素案について

事務局から、資料1、資料2、参考資料に基づき、基本計画修正素案について説明した。また、事務局から、委員より事前にいただいた意見について、報告した。

【事前にいただいた主な意見】

- ・PPP/PFI手法の導入を想定しているのであれば、今後具体的な内容を検討していく際に、民間が稼ぐことができるような余地を残せるようにするとよい。(山口委員)
- ・計画内にSDGsを記載する場合は、いきなり目標達成のゴールを記載するのではなく、SDGsについての説明や市との関わり方等を記載することで、見やすくなるのではないかと。(押田委員)
- ・計画内に「本計画の目的と位置付け」とあるが、位置付けの図とその後に記載されている計画の概要説明の部分に関連付けることで見やすくなるのではないかと。(押田委員)
- ・計画内に鹿沼公園の維持管理費の表があるが、この維持管理費が他の公園管理費用と比較して高いのかを記載するとよい。(押田委員)
- ・現在の鹿沼公園の維持管理の実態として、各公園施設の機能維持に留まっており、環境改善には至っていない旨を、課題として記載するとよいのではないかと。(押田委員)

【主な意見】

- 公園のゾーニングパターンについて、市民検討会委員から現状の3案を2案に絞る意見が出ているが、次回の市民検討会で検討する予定であるのか。(野口会長)
- ゾーニングパターンの絞り込みについては、次回の市民検討会で検討する予定はなく、3案を含めた複合施設配置想定ゾーンとして計画に明記したいと考えている。

- 計画内のこれまでの取組状況のところ、今は市民検討会での検討結果を中心に記載しているが、基本計画策定のプロセスを説明するのであれば、既存の施設の利用者や運営協議会等から出た意見、施設利用者団体等から要望書等が提出されている経過等も記載してはどうか。(伊藤委員)
- 一度公表したH29基本計画案の中では、各施設の運営協議会や利用者等へ説明した経過を記載していた。市民検討会での検討と並行して、各施設の運営協議会等の場で市民検討会の検討経過等について説明しているところである。そういった経過を今回の基本計画の中に記載していきたいと考えている。
- 計画内の施設部分の記載で見ると、ハード面に比べてソフト面に関する記載が弱いと感じる。住民がどのように施設の運営に関わっていくのか、よくある言葉であるが、市民参加、住民主体の運営は、複合化の対象施設である公民館や図書館等の社会教育施設では、従来から大切にしてきたことである。このままの内容であると、施設の運営等については民間事業者に一任する形になってしまうように感じる。(伊藤委員)
- 今回の計画の中では、施設の運営方法や諸室の在り方等については、計画策定後に検討すべき事項として位置付けている。その中でも、施設の運営方法の方向性や実現すべき機能として、住民参加のもとでの運営については、明記していると認識していたが、より伝わりやすい記載の仕方を考えていきたい。
- 計画内のバックヤード機能についてだが、効率的な行政サービスありきではないと思っている。異なる部局が所管する施設が複合化されることで、職員間のコミュニケーションが図られることが期待されると思う。立場の違いから時には議論が必要になったり非効率的なことも生じるだろうが、そういったことも含めて、大事であると思う。例えば、職員間の連携を通して各分野での行政間の連携を図ることができる等、そういった視点の記載があってもいいかなと感じた。(伊藤委員)
- 施設が複合化することで、これまで事務所が別々だった職員が、一緒の空間で働くことになる。その空間では様々なコミュニケーションが図られ、それが住民サービスの向上に繋がるという効果が生まれることも考えられる。そういった部分について、計画の中に追記していきたい。
- 私も同感であり、今まで利用者側にとって複合化されることによる効率化だけではないメリットを散々うたってきたが、運営側の視点を記載するのは良いと思う。また、資料1は計画の概要を説明する資料としては、H29に公表した

計画案と比較する構成となっており、市民検討会の意見を踏まえてどのように修正したのかを分かりやすい資料になっている。本日出た意見を事務局で整理した上で、資料への反映を検討していただきたい。(野口会長)

以 上

出 欠 席 名 簿

役 職 名	氏 名	備考	出欠
青山学院大学 コミュニティ人間科学部 コミュニティ人間科学科 准教授	伊藤 真木子		出席
青山学院大学 コミュニティ人間科学部 コミュニティ人間科学科 教授	大谷 康晴	副会長	出席
日本大学 理工学部 まちづくり工学科 准教授	押田 佳子		欠席
日本大学 生物資源科学部 暮らしの生物学科 助教	小島 仁志		欠席
法政大学 法学部 政治学科 教授	杉崎 和久		出席
東海大学 建築都市学部 建築学科 助教	野口 直人	会 長	出席
青山学院大学 大学院 会計プロフェッション研究科 研究科長	山口 直也		欠席